



「軍民坂」という坂の名前は、旧陸軍と住民たちによって作られたことに由来するヨ!



# 水戸の時空を ひとまたぎ

第3回

## 地域を超えた 文化の交流

遺跡の発掘調査は、過去のさまざまな文化を伝えてくれます。時には、地域を超えた文化の交流が明らかになることも。今回は、軍民坂遺跡で発見された東北地方との文化の交流の跡について紹介します。問合せ／埋蔵文化財センター

(☎269・5090)



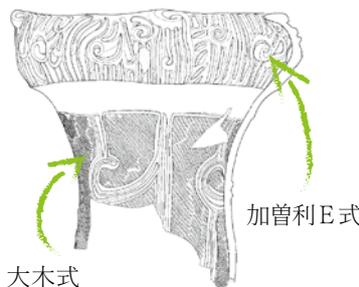
軍民坂遺跡の炉

右側の土が赤く焼けた場所で火を焚き、左側の土器が埋め込まれた部分に火種や灰を入れていた



上国井町にある軍民坂遺跡の発掘調査で、珍しい炉が発見されました。炉とは、いわゆる「囲炉裏」のことです。8の字に石が並べられたこの炉は、「複式炉」と呼ばれ、約4300年〜4600年前の縄文時代の竪穴住居内に設置されていました。複式炉は、この時代の東北地方に多くみられるもので、水戸市内での発見例はわずか2例です。

また、軍民坂遺跡では、「加曾利E式」という関東地方の特徴的な文様と、「大木式」という東北地方の特徴的な文様をあわせもつ土器も出土しています。これらの発見により、縄文時代の水戸に、既に東北地方の文化が伝わっていたことがわかります。



遺構や遺物には、構造や文様など、さまざまな要素が盛り込まれています。それらの一つ一つを拾い上げて観察することで、各々の時代や地域の特徴をとらえることができます。そこに複数の地域の特徴が見つかれば、遙か昔から交流があったという事実が浮き彫りになるのです。ひとつの遺跡の調査から、水戸と東北地方という、遠く離れた地域の交流が明らかになる意外性。これも発掘調査の醍醐味であり、発掘調査でしか明らかにできない、文化の交流史の一端であると言えるでしょう。

歴史文化財課 太田勇陽

## ダイダラボウのひとりごと ～「マコ」は強い味方!?～

遺跡から出てきたモノの形を正確に測りたいとき、大活躍するのが「真弧」という道具だよ。

数百枚の薄い竹の板を束ねてできていて、土器などのうつわに押し当てると、凸凹ができる。それを方眼紙になぞって、輪郭を写し取る…というふうに使うんだ。

うつわの輪郭から、使用されていた年代や製作技術など、いろんなことが分かるんだよ。正確な実測図づくりは、遺跡全体の理解につながる大事な作業だから、

真弧を使う様子



実測図を描く人も、それをチェックする人も、何度も真弧を使って確認するんだ。

真弧は、戦前の考古学者、小林行雄が発明したと言われる、古い道具。優れた道具は、いつまでも使われ続けるんだね。



古本集めが趣味の、今月のダイダラボウOが、「マコ」について語るよ。

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)  
〒310-8610 水戸市中央1-5-1  
ホームページ / <https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・224・5188  
☎029・224・5188 [kounou@city.mito.jg.jp](mailto:kounou@city.mito.jg.jp)